

選手のセルフマネジメントによるチーム結束力向上

—BSSC 野球部に着目して—

小鏑 俊介 (競技スポーツ学科 コーティングコース)

指導教員 鳥羽 賢二

キーワード：セルフマネジメント, チーム結束力

1. はじめに

チームが結果を追求するためには、チームワークが必要となる。チームワークを向上させるためには、スタッフと選手や選手同士の信頼関係を強くすることで、チーム内での意思の疎通が円滑に行われるようになる。その基盤となるのは、選手一人ひとりのセルフマネジメントに大きく関わっている。

セルフマネジメントとは、目的を達成するために行う自己管理のことであると定義する。本学野球部は、意志の統一や部員全員への情報伝達がうまくいかず、ルールや規律の理解不足を招いているという現状がある。この問題の所在は、部員のセルフマネジメントの低さにあると考えられる。部員が多いことやチーム競技であることが帰因し、個人の管理が疎かになっているのである。

そこで、本研究では、チーム結束力を向上するためのセルフマネジメントの必要性を明らかにし、そのメカニズムを提示することとした。

2. 研究方法

①文献調査:組織,セルフマネジメント,チームワークに関するもの

②アンケート調査:対象は,本学野球部 85 名 (回収率 96%)

③インタビュー調査:同 20 名

3. 結果と考察

ノートを活用することにより、「情報に敏感になった」、「過去の行動を再確認をしている」、「目標達成の為に活用している」などの意見があげられた。このことから、ノートを活用することは、自分自身の反省や、チームの現状、課題などに対する「気づき」が生まれることが理解できる。それは、個人の中の暗黙知を脱却し、周囲に発信できる情報に変換できる。また、ノートを活用し自己管理をしている部員は、2 割存

在した。それを実践している部員は、実践していない部員に比べると、ミーティング場面での発言が多い。ミーティングの場での活発で建設的な意見交換は、チームの結束力を向上させると考えられることから、ノート活用はセルフマネジメントに非常に有効であることが理解できる。

4. 結論

図 1 に示したように、ノートを活用することにより、情報に敏感になり、「気づき」が生まれる。そして、選手同士で、建設的な意見交換を行うことにより、その情報や気づきを共有できる。発言することによって選手に責任感が生まれる。そのことは、チームの方策である「主体的なチーム作り」を、より強固にすることができると考えられる。つまり、セルフマネジメントがコミュニケーションをより活発にさせ、新たなアイデアの創出となり、結束力向上に繋がるのである。

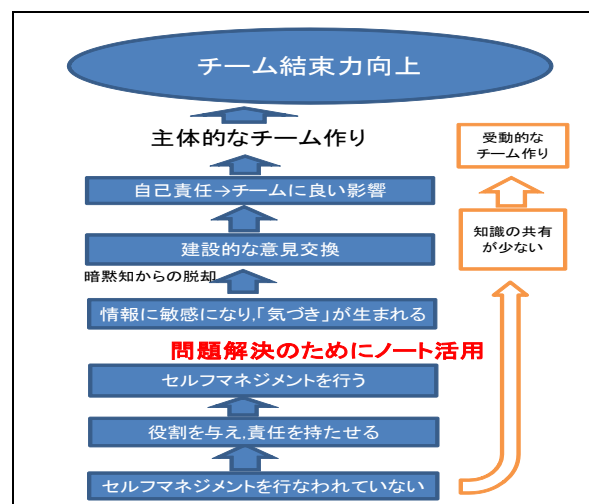


図1 チーム結束力向上のメカニズム (筆者作成)
引用・参考文献

二宮豊志 (1998) 「組織マネジメントの基盤としてセルフマネジメント」 東海大学政治・経営学部紀要 31, 167-182

